

明解現代文B 教材の内容

I部

1 随想一

● 待つということ(角田光代)

社会論

不安げなアジア人の女性を駅のホームに残してきた私。その胸には小さな後悔が芽生え、タイを旅行した時のある思い出が浮かびあがってきた。

● 春(内山節)

身体論

春になると豊かさや安心を感じるのはなぜだろう。この素朴な疑問を手がかりに、人間と自然の関わり方について考える。

2 小説一

● 水かまきり(川上弘美)

昔なじみのケン坊と一緒に川辺を散歩する私は、以前と違うケン坊の様子にとまどっていた。散歩の途中で、ケン坊はたらいの中に一匹の水かまきりを見つけた。

● 神様搜索隊(大崎善生)

年二回催される町内会の探し物ツアーは、成果らしい成果をあげないが、毎回盛況である。「僕」の妻、陽子は熱心な参加者だが、今回のツアーの探し物は「神様」だった。

3 評論一

● コンコルドの誤り(長谷川眞理子)

思考論

英仏両国が大量投資した超音速機コンコルドの開発計画。その挫折には、人間が犯しがちな、思考の誤りがひそんでいた。

● 想像する力(松沢哲郎)

思考論

人間とは何か。チンプンジーと人間を比べることでどのようなことがわかるのだろうか。筆者の考察を読み取り、人間の特徴について考えよう。

5 詩

● 汚れつちまつた悲しみに……(中原中也)

「汚れつちまつた悲しみの繰り返しの中に自らの苦悩を描く文語定型詩。詩人の代表作の一つ。」

● 耳の秋(新川和江)

静寂の中に聞こえる虫の音から宇宙の深遠さへと思いはせる。身近な事象から壮大な世界が展開される。

● 未確認飛行物体(入沢康夫)

夜ごと空を飛ぶ彗星はどこへ何をしに行くのか。ナンセンスなイメージと心が温かくなる一編。

6 短歌

● ただ一枚の絵葉書(短歌十首)

与謝野晶子から黒瀬珂瀾まで近現代の歌人十二人の秀歌を、「恋」「傘」「髪」「遠くへ」の五つのジャンルに沿って選んだアンソロジー。

7 随想二

● 前の駅出ました(佐藤雅彦)

心理論

私たちは、日々の生活の中で、今までとは違う視点があることに気づいた時、周囲の世界ががらっと変わって見えることに驚く。そして、新しい何かを発見する。

● ズルい言葉(酒井順子)

言語論

日常のちよつとした言葉遣いが妙に気になることはないだろうか。改めて自分達の生活を振り返り、言葉について考えてみよう。

8 小説二

● ナイン(井上ひさし)

新道少年野球団が少年野球大会で準優勝してから、約二十年。少年たちのその後を描く。

● 芋ようかん(内海隆一郎)

おばあちゃんの作る芋ようかんは、甘菓堂の名物だ。ところが店の後継ぎとなった息子は製造をやめようと言いだした。採算が取れないのだろうか……。

9 評論二

● 持たないという豊かさ(原研哉)

文化論

自分の家の部屋や居間を思い浮かべてみよう。本当に「必要な物」だけが置いてあるだろうか。筆者の言う「豊かさ」とは何かを考える。

● 「自分」について考える(竹田青嗣)

思考論

「自分」とはどういう存在か。他の人とのような違いがあるのか。「自分」について考える方法とは。

10 小説三

● ころも(夏目漱石)

人と人との間に横たわる闇と孤独、エゴイズムを鋭く見つけた近代の代表的小説。

II部

1 随想一

●春の小川の思い出(たぐくらもせい) 成長論

誰にでも幼い頃の思い出はある。それにはどんな思い出が伴っているだろうか。『ちびまる子ちゃん』の作者である筆者は、どんなことを振り返っているのだろうか。

●誰の目にもふれないところで(小川洋子) 小説論

私たちは自分一人だけではなく、多くの人に支えられて仕事をし、何かを成し遂げている。そのことに気づいた時、新たな思いがわいてくる。

2 小説一

●山椒魚(井伏鱒二)

岩屋に閉じ込められてしまった山椒魚。何度も脱出を試みるが徒労に終わる。外の世界への夢を断たれた山椒魚の心は少しずつ変化していく。

●ピクニックの準備(恩田陸)

秘密を抱えた貴子と融。三年生で偶然同じクラスになった二人は、それぞれの思いを抱えたまま、高校最後の行事「ピクニック」の前夜を迎えた。

3 評論一

●「宇宙人」地球以外に生命体は存在するか(渡部潤二) 科学論

「宇宙人」は存在するのか。長年天文台に勤務して研究を続けた筆者が、宇宙科学の研究成果をふまえ、その可能性を論じる。

●ホンモノのおカネの作り方(岩井克人) 経済論

「ホンモノのおカネ」とは何か。貨幣の本質について、鮮やかなパラドックスによって描き出す。

5 詩

●ユメカサゴ(吉原幸子)

「ユメ」という名をつけられた魚。その姿を見て作者が考え、感じたことは。

●永訣の朝(宮沢賢治)

「いもうと」が死ぬ前に「わたくし」に頼んだことと、それが意味することは。若くして死んだ妹に送る挽歌。

6 俳句

●ノートの先に海 俳句十句

尾崎放哉から山口優夢まで近現代の俳人十二人の秀句を、「やさしさ」「子ども」「若き日」「空を見上げて」の四つの題に沿って選んだアンソロジー。

7 随想二

●最初のペンギン(茂木健二郎) 思考論

「生物は皆不確実な世界の中で生きている」。人はその不確実な状況にどう立ち向かっているのか、直観と感情をキーワードに解く。

●なまけものコンプレックス(別役美) 文化論

動物園でよく見る「なまけもの」。いつも木にぶら下がって世界を逆さまに見ているなまけものの姿をとおして、筆者は何を見いだしたのか。

8 小説二

●山月記(中島敦)

若くして才能を発揮した李徴は、詩人として名をなすべく詩作にふけた。しかしその後、彼を待っていたのは数奇な運命だった。

●破船(全村昭)

幼いながらも一家を支えなければならぬ主人公が、教えを乞いながらさんまの手づかみ漁に挑む。漁に向かう思いとその結果とは。

9 評論二

●「自由」のはき違え(鷺田清一) 思考論

私たちは「自由」でなければ決して幸せになれない。しかし、「自由」の意味を取り違えると、逆に不幸を招くこともある。あるべき「自由」について、考えよう。

●「知る」ということ(加藤周二) 思考論

「知っていること」と「知らないこと」を区別するのは簡単だ……。本当だろうか。「知る」ということの本当の意味を探ってみよう。

10 状況と人間

●十五歳の東京空襲(半藤一利) ノンフィクション

一九四五年三月十日午前〇時八分、アメリカ軍の爆撃機B29の大編隊三三五機は、東京の「下町」に史上最大規模の無差別爆撃を開始した。